



かおり

vol.
54
May
2016



撮影者 / 江藤文彦

理 念

私たちは地域の皆様の
幸福(しあわせ)に貢献できる
社会福祉法人を目指します。

品質方針

顧客満足から顧客感動へ
「やさしさ」「真心」「思いやり」で満ち
溢れた**心のかおり**のするサービスを
目指します。

今回の内容

中・長期計画を策定しました	02
しおかぜの里保育園の“今”を聞いてきました!	03
介護福祉情報 利用者様の利用料金の負担軽減制度が あるのを皆さんご存知ですか?	04
各拠点からのお知らせ さこ拠点(彦島追町)	04
たのくび拠点(彦島田の首町)・しおはま拠点(彦島塩浜町)	05
ゆめタウン拠点(長府ゆめタウン)・しおかぜ拠点(彦島追町)	06
松美会の人財 私たちが働いています!	07
自宅でできる介護食のススメ	08

中・長期計画を 策定しました

2016～2020年の中・長期計画『社会福祉法人 松美会 VISION(ビジョン) 2020』を策定しました。法人理念である「地域の皆さまの幸福(しあわせ)に貢献できる社会福祉法人を目指す」ために、法人を支えてくれる職員とその家族の幸福(しあわせ)を実現し、そのことが法人の持続的な発展につながるのだと信じています。今年度はさらにサービス提供部ごと2020年までの計画を策定します。

社会福祉法人 松美会 VISION(ビジョン) 2020

中・長期計画 2016～2020

社会福祉法人 松美会は、社会環境の変化に適応し、時代が求める高齢者介護サービスの提供体制を整えながら成長を続けてきました。2015年6月、おかげさまで20周年を迎えることができました。2016年度からの5年間、2020年を見据え、法人理念を実現するために目指すべき方向として『VISION(ビジョン) 2020』として示しました。また、それを具体化するための行動指針として『アクションプラン17』を示し、さらなる成長を目指していきます。今後は、『VISION(ビジョン) 2020』『アクションプラン17』に基づき、下関市の福祉(介護・保育)をリードするプロフェッショナル集団としての誇りと自信に満ち溢れた立ち姿で、品格のある法人経営を推進し、下関市らしい地域包括ケアを創りあげていきます。

理念

私たちは 地域の皆さまの幸福(しあわせ)に
貢献できる社会福祉法人を目指します

1

福祉人材の 確保・定着・育成

法人の魅力をあらゆる手段を駆使して発信し、質の高い人材の確保を進めるとともに、職員を大切にしやすい職場づくりを推進することで、定着させ、顧客満足を実現できる人材を育成します。

2

顧客(利用者・家族・ 地域・職員)満足の追求

独自能力をもって、顧客(利用者・家族・地域・職員)満足を實現するために、自らサービスの質を点検し、評価し、顧客満足度を把握し、改善し続けることで、顧客が価値あるものと認めるサービスを提供するとともに、地域への貢献、まちづくりへの貢献を目指します。

3

財政基盤の安定

財政基盤の安定なしに、
1. 福祉人材の確保・定着・育成
2. 顧客満足の追求
の實現はできません。そのために、業務・事業の効率化・重点化を推進し、サービス事業所ごと(拠点ごと)の黒字化を徹底します。さらには、大きな設備投資を要しない既存の施設・設備に着目し、それらを活用した新たな事業展開を模索します。

しおかぜの里保育園
新園舎オープン企画



しおかぜの里保育園の

“今”を聞いてきました!

今回、2月に新園舎が開設したばかりの“しおかぜの里保育園”に訪問し、泉園長先生にインタビューしてきました。



Q 現在の保育園の運営状況を教えてください。

園児数は4月1日現在95名です。内訳は、男の子が62名、女の子が33名です。しおかぜの里保育園は、市立西山小学校の校区内にあることから、約7割が西山小学校区のお子さんになります。彦島外からご利用いただいているお子さんもいますが、多くが彦島内の校区からのお子さんとなります。職員は園長も含め21名です。



Q 最近の家庭における保育事情・保育園における保育事情についての課題などありますか？

核家族化が進み、何か不測の事態があってもご家庭でお子さんを見れない状況にある方が多くなっていると思います。お熱が出ているなどの対応は残念ながら今のところ、しおかぜの里保育園では対応することができません。お困りのご家庭に対して、予め病児保育所への登録をお願いしているところです。



Q ズバリ、しおかぜの里保育園ならではの特徴は何ですか？

海水浴場(ひこつらんどマリナービーチ)のすぐ目の前に保育園があることから、夏には海あそびができる保育園です。また、送り迎えをされるご家族にもご不便が掛からない様、広い駐車場を用意しています。給食については、美味しいことはもちろん、一日600kcal以上の食事を提供したり、様々なアレルギー対応食を準備したり、生協から食材を仕入れ着色料や防腐剤をできるだけ使用しない食材を使うなど“子どもたちにとって美味しく、安全、安心な食事”を提供しています。



Q どのような保育園にしていきたいですか？

しおかぜの里保育園では、「子どもたちに優しい保育園」、「保護者に寄り添う保育園」、「保育士の質の向上」、「食の充実」、「地域の保育園」、「わくわくドキドキする保育園」を目指し全職員で励んでいます。

これらの目標に対して保育士一人ひとりに、「具体的にはそれはどういった保育なのか?」を考えてもらいながら、その思いに近づけるよう実践していきたいと思っています。



新園舎オープンから3か月。移転したばかりで卒園、入園式など大切な行事が続きました。それでもお子さんの保育には影響が出ないよう、最大限の努力を行ってきました。これからこの新しい保育園で、“松美会が目指す保育”を実現し、地域の皆様へその持てる力を還元していきたいと思えます。

皆様、これからも“しおかぜの里保育園”をよろしく願いいたします。 園長 泉 喜代美



介護福祉情報

社会福祉法人だからこそできる

利用者様の利用料金の負担軽減制度があるのを皆さんご存知ですか？

～「社会福祉法人等による利用者負担軽減制度」について～

この軽減制度は、社会福祉法人等が、その社会的役割をかんがみご利用者様の負担の軽減を行うことにより、介護保険サービスの利用促進を図るものです。また、この制度では、社会福祉法人等がご利用者様の利用料の一部を負担するものであるため、全ての社会福祉法人が軽減制度を導入しているものでもありません。

私たち松美会では、制度開始当初より導入をはじめ、今までも多くのご利用者様にこの負担軽減制度を利用していただきました。利用される方が多いほど、私たち法人の負担は大きくなります。しかし、低所得の方の負担を軽減することが、社会福祉法人である私たちの役割です。対象要件に該当する方は、下関市に申請を行っていただき、当法人のサービスご利用時にお申し出ください。

制度の対象者

市民税非課税の方で、一定の条件の全てを満たす方のうち、申請に基づき市から認定された方。軽減対象者と認定されると、市町村から「軽減確認証」交付されます。

制度の対象となる当法人のサービス**●さこ拠点**

- ・特別養護老人ホームアイユウの苑
- ・アイユウの苑ショートステイ
- ・アイユウの苑ホームヘルプサービス
- ・アイユウの苑デイサービスセンター

●たのくび拠点

- ・アイユウの苑デイサービスセンターしおはま

●しおはま拠点

- ・地域密着型介護老人福祉施設アイユウの苑しおはま
- ・小規模多機能型居宅介護アイユウの苑しおはま

●ゆめタウン拠点

- ・地域密着型介護老人福祉施設アイユウの苑ゆめタウン
- ・アイユウの苑ゆめタウンショートステイ

制度の対象者や軽減の割合等、詳しい内容は、当法人の各事業所、もしくは下関市へお問い合わせ下さい。



各拠点からのお知らせ

さこ拠点
(彦島迫町)**認知症予防の取り組み**

デイサービスセンターに求められる機能として認知症高齢者や中重度の要介護者を積極的に受け入れることが今、求められています。そこでアイユウの苑デイサービスセンターでは、認知症予防に重点をおいて2つの取り組みを実施しています。

1つ目は、認知症に対する理解を深め、特性を知るために2名の介護職員が認知症介護実践研修に参加をしました。現場では、認知症のご利用者様との関わり方や考え方など学んだことを実践しています。

2つ目は、デュアルタスク運動を取り入れたプログラムを作りました。デュアルタスク運動(二重課題)とは身体を動かしながら、同時に頭を使う運動です。例をあげると、洗濯物をたたみながら、テレビを観るなど簡単なことです。当センターでは、ステップや足踏みをしながらかの倍数で手を叩く運動や、ステップを踏みながら特定の数字だけ足を枠の外に出すといったプログラムなどを実践しています。

今後も認知症を予防しながら、穏やかにその人らしい在宅生活が継続できるよう援助してまいります。

デイサービスセンター
管理者 岡本幸一





認知症の進行予防と 身体機能の維持への具体的な取組み

皆様の中には「100歳の双子姉妹、きんさんぎんさん」を覚えていらっしゃる方も多いかと思えます。

たのくび拠点のグループホームとデイサービスセンターしおはまでは、サービスの一環として『クノンボールエクササイズ』を取り入れています。

クノンボールエクササイズはそのお一人、成田きんさんの晩年のトレーナーである愛知県の久野接骨院の久野信彦氏が開発した、ゴムボールのゴムの弾力を利用した筋力トレーニングです。

これはあまり知られていない事実ですが、きんさんが久野接骨院に初めて来院した際には、ご自分で歩くこともままならず、またトレーニング開始当初には“10”まで数える際にも間違えてしまう状態で、認知機能の衰えも顕著であったそうです。

しかし、きんさんの持ち前の気持ちの強さと、その思いに応えた久野氏の指導するトレーニングにより、お元気でユーモアたっぷりのきんさんに戻られたと聞きます。

その話を聞いた職員が、直接名古屋を訪れ、久野氏より直接指導していただきました。その指導を受けた職員が施設内で実施方法を他の職員と共有し実施しているのが当拠点のクノンボールエクササイズです。

『いつ始めても、遅すぎるということはない!』を合言葉に、今日も多くのご利用者様がトレーニングに励んでいます。

アイユウの苑 グループホーム
管理者 江藤文彦

各拠点からのお知らせ

たのくび

拠点
(彦島田の首町)



各拠点からのお知らせ

しおはま

拠点
(彦島塩浜町)

地域密着型介護老人福祉施設しおはま
生活相談員 山本菜生子



地域の中の一員として

しおはま拠点では、ご利用者様と地域の皆様とのつながりをより大切にしています。特に地域に出掛ける機会づくりは積極的に心掛けているところです。その1つが地域の自治会で行なわれているサロン「ウエルカムサンデー」への参加です。毎月第一日曜日、町民館に地域の皆様が集まり、お茶をしながらお話やレクリエーションを楽しむ等、自治会の皆様が地域交流する機会を作ろうと積極的に取り組まれている活動です。昨年、施設へもお声を掛けていただき、参加させていただくことになりました。

いつもみなさん快く迎えて下さり、囲碁の対局を楽しみにされているご利用者様もいます。前回は、百人一首が好きな方の為にわざわざ百人一首を企画して下さいました。とても楽しかったようで「また連れてって」と言わ

れています。地域の皆様より施設は、なかなか入りづらいものだとは伺うことがあります。このように施設から地域に出向くことで「今度見学に行っていিকা」と声を掛けていただくこともあり、「アイユウの苑しおはま」を知っていただける良い機会にもなりつつあるのを実感しています。

私たち社会福祉法人は、施設や設備も、そこで働く職員の知識や技術も、社会資源の一つとして地域に還元する責任があると思っています。それらを大いに活用していただき、交流を深めることで、より地域に根付き、地域の皆様から必要とされる施設になればと思っています。



私たちが地域の皆さまへ還元できるもの

ゆめタウン拠点では、地域に密着した福祉施設を目指しています。少しでも、地域の皆様に活用される存在となるべく、さまざまな取り組みを行っています。今回はその一部をご紹介します。

まず、1つ目は地域住民の方を対象とした“身近な介護教室”です。身近な介護教室では、現在増え続けています“認知症”という病気の理解や“介護保険”、“介護技術”といった地域の方の身近な課題をテーマとして取り上げています。

2つ目は、毎年、夏休みの時期に開催しています“子供介護教室”です。子供介護教室は、小学生を対象としており、最近では、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活する世帯も昔と比べるとずいぶん減少している

なか、少しでも高齢者を身近に感じ、“介護”というものが誰にでも起こりうるものであることを小さい頃から学んでいただきたく実施しています。実際には、“車椅子の体験”や“介護疑似体験”として、身体に重りを付け、実際に介護状態になったら、どのくらい不自由があるのか等を体験してもらっています。

その他、1Fホールを体操教室等で地域の方に役立てていただいています。

これからも、地域に密着した施設として、少しでも当苑を地域の皆様に役立てていただけるよう、地域のニーズをしっかりと考えながら、事業運営できればと考えています。



地域密着型介護老人福祉施設ゆめタウン
主任生活相談員 中村 洋文

各拠点からのお知らせ

ゆめ
タウン
拠点
(長府ゆめタウン)

各拠点からのお知らせ

しおかぜ

拠点
(彦島迫町)

しおかぜの里保育園
園長 泉 喜代美



AED救急ステーションに認定されました

この度、下関市内にある保育施設では初めてとなるAED救急ステーションとして認定証の交付を受けました。

AED救急ステーションとして認定されるためには、上級救命講習修了者を1名以上確保していることや、普通救命講習修了者が全従業員の70%以上いること、年に一回以上、救急訓練を実施していること、自動体外式除細動器(AED)を常備していることなどの要件を満たさなければなりません。

保育園の周辺で起きた事故や急に体の具合が悪くなって、呼吸や脈が止まってしまう危険な状態になった場合など、救急車が到着するまでAEDを使って、電気ショックと心肺蘇生を行い、1人でも多くの命を守ることができる体制を整えることができたことは、保育園に通う子供たちや保護

者の皆様はもちろんのこと、地域の方々に少しでも安心していただける体制が整えられたのではないかと考えています。特に当保育園は、海水浴場のすぐ前に立地しており、子どもたちも海あそびにも出掛ける機会がありますが、急な海難事故の際にも役立つことができるのではないかと考えています。

いざという時であっても、職員が慌てず的確に対応ができるよう訓練を重ねるとともに、「しおかぜの里保育園にはAEDがある」ことを地域の皆様にも広く知っていただければと思います。





地域密着型
介護老人福祉施設ゆめタウン
介護職員 井藤 恵
平成23年度入職 介護福祉士

私が成長したきっかけは「この時です!」と表現するのは難しいのですが、思い返してみるとサブリーダーの役職に就いたことや、介護福祉士の事例発表会に参加したこと、こういった機会が、自分が成長するきっかけになっていたのではないかと思います。私が介護の仕事を始めたばかりの頃は、ご利用者様と会話をする時、どう声を掛けたら良いのか戸惑うことが多くありました。今では、ご利用者様の手を握ってお話をするのが癖になっており、あの頃の自分とは変わったなと思います。「なにげない会話でもしっかりコミュニケーションをとり信頼関係を築く」それは、私がこの仕事をするうえで大事にしていることです。また、他の職員に相談することや相談されることが増えたこと、私はこの仕事が好きだと胸を張って言えること、それは私が介護士として成長したということだと感じています。まだまだ未熟な所も多くありますが、初心を忘れずご利用者様に寄り添いながら、より一層温かみのある介護士になっていきたいと思っています。



しおかぜの里保育園
保育士 末次 理衣
平成26年度入職 保育士

保育士となって2年が過ぎました。元気いっぱいの子どもたちとの挨拶から一日が始まり、子どもたちから多くのエネルギーをもらいながら毎日楽しく仕事しています。

子どもたちと関わるなかで、思いが通じず、悩んだり日々反省したりすることも多くありますが、本気で向き合うことで教わることも多くあります。思いを伝え合うことで信頼関係が深まり、お互いに認め合うことができた時、子どもと向き合い寄り添う大切さに改めて気づき痛感させられます。

毎日、子どもたちと一緒に過ごしていると、友だちや自分ができるようになったことをみんなで喜び合ったり、生活していく中での悔しさや悲しさや感動など、様々な思いを共有し合ったりする場面が多くあります。その中で、子どもたちが自分の思いに答えてくれた時に自分も子どもたちも成長していると感じることができます。

子どもたちと接する中で「できた!」が増える日々を共に喜び合えることは、とても素敵なことだと思っています。

これからも、一つひとつ経験し学びながら、子どもたちの良いところを見つけて、伸ばしてあげられるような保育士になれるよう日々精進していきたいと思っています。



松美会の人財

私たちが働いています!

今回のテーマは...

自分が成長したきっかけや、成長したと実感する時



ケアマネジメントセンター
ケアマネジャー 林 佳代子
平成26年度入職 介護支援専門員

私は、ケアマネジャーとして、ご利用者様が今、どんなことに困っているのか、本当はどういう生活をしたと望んでいるのかを伺い、ご利用者様やご家族様と相談しながら解決策を考え、ケアプランを作っています。

ご利用者様のなかには、普段外出される機会も少なく、ご自宅では気にされてなかったお洒落を、デイサービスではしっかりお洒落して過ごされている姿をお見かけすると嬉しく思います。サービス利用当初は、あまり気乗りされていないご様子であったにも関わらず、次のご利用を心待ちにされている姿を見ると、「その方にあったサービスをご紹介できて良かった」と、自身の成長を実感できます。

お風呂に入れない、買い物に行けない、転倒を繰り返している等、ご高齢になるにつれて、身体機能の低下や認知症の発症などにより自宅での生活が難しくなってきます。介護保険を利用することにより、生活が変化し、少しのお手伝いで生活状態が改善されることもあります。自分が関わることで生活状態が良い方向に変わっていくことができるように、支援のプロとして頑張っていきたいと思っています。



特別養護老人ホーム
介護職員 福田 翼
平成21年度入職 介護福祉士

私は、東日本大震災の約2年後の平成25年の夏、福島県いわき市にある老人保健施設へ介護の応援職員として2ヶ月間参加させていただきました。応援期間、職員の皆さん、ご利用者の皆様から震災直後の様子や不安、悲しみなど、私の想像を絶する悲惨な体験をお聞きすることができ、「私がここでできることはやりきろう!」と誓ったのを覚えています。

私の派遣先の施設では、当時の経験を生かし、災害時備蓄品を増やしたり、災害時でも使用できる自販機を設置し飲料の確保を進めていました。また、朝の申送り時には災害時の対応についてテストを行っています。施設部長さんが言われた言葉のなかで忘れられない言葉があります。「震災があったから今がある。」という言葉です。防災の意識を常に高く持つことで自分を含め多くの方の生命を救えるのだと教えられました。福島に行き学んだことがとても多く、それが今の私の成長の証です。震災直後、TVで被災状況を観て「何か力になりたい!」と想い応援に志願したことは、本当に良かったと思っています。



